

## 白石市青少年健全育成・非行防止推進大会

(7月8日、中央公民館)

「児童虐待と地域の関わり」と題した講演のほか、子どもたちが健やかに成長していくために必要な活動を市民が総力を挙げて推進していくとの大会宣言が採択されました。



▲児童虐待について熱心に講話する池田耕一氏

## 白石市ジュニア・リーダー初級研修会

(7月29・30日、宮城県蔵王自然の家)

研修会では、テントの設営と撤収のしかたやジュニア・リーダーの役割、救急法などを学習しました。

今後、子ども会活動などで活躍することを期待しています。



▲野外炊飯活動のカレーライス作り

## 七夕まつりを開催

(8月5日～7日、武家屋敷)

昔の七夕様の着物やきんちゃくの展示のほか、初日の5日には七夕飾り作りと飾り付けが行われました。

参加した子どもたちは、思い思いに七夕飾りに願いを託していました。



▲見事な七夕飾りができました!

## 今年で最後を迎えた温もりの劇

### 第20回手話劇「佐渡ぎつね」を開催

中央公民館で7月23日、白石しらゆり会手話サークル主催の第20回手話劇「佐渡ぎつね」が開催されました。手話の普及やさまざまな障害を持つ方への理解と社会参加を促進する目的で毎年開催されているこの手話劇も、20回の節目を迎えた今回が最後の劇となりました。

この日は、手話狂言「佐渡ぎつね」をはじめ、ダンスや劇など、熱の入った演技を次々と披露。来場者から惜しみない拍手が送られていました。



▲迫真の演技・手話狂言「佐渡ぎつね」

## 3 B体操で楽しく健康維持!

### 3 B体操創立35周年記念全国大会in宮城大会

ホワイテキューブで7月15日、3 B体操の創立35周年を記念した大会が開催され、仙南各地区のサークルなどから約200名が参加して楽しく体を動かししました。

3 B体操は、ボール、ベル、ペルターと呼ばれる補助用具を使用しながら、音楽に合わせて集団で行う健康体操です。創立35周年に当たる今年は、全国各地で同様の記念大会が開催されており、延べ5万人以上の参加を見込んでいたとのこと。



▲ベルを使って楽しく体操する参加者の皆さん

## 日ごろから鍛えた技を披露!!

### 登別・白石姉妹都市少年スポーツ交流事業 武道大会

7月30日、白石中学校体育館などで、姉妹都市である登別市の小中学生との交流を目的とした武道大会が開催されました。

今回で4度目となった武道大会には、登別市から柔道、剣道、空手道の3種目の選手や指導者48名が参加。



▲大きな声で「面」!一本!

各種目で熱戦が繰り広げられたほか、試合終了後には合同練習が行われるなど、スポーツを通じて楽しく交流を行いました。来年は、登別市で同大会が開催されます。

## 「ひと休み運動」で交通安全!

### 夏の交通安全キャンペーンを開催

8月10日、東北自動車道白石インターチェンジで、夏の交通安全キャンペーンが行われました。



▲交通安全を呼び掛ける参加者の皆さん

「交通安全『ひと休み運動』」と名付けられた今回のキャンペーンには、白石地区交通安全協会白石支部や白石市交通安全母の会などから約60人が参加。ドライバーに飲み物やティッシュなどを配りながら、「休憩を入れた安全な運転を心掛けてください。」と交通安全を呼び掛けていました。

## 体験しよう!健康づくり

### さわやかフェスティバルを開催

7月22日、ホワイテキューブでさわやかフェスティバルが開催され、訪れた約2,300人の皆さんは、楽しみながら健康づくりを体験しました。



▲たくさんの人が列を築いた検診コーナー

今年は、デューク更家さんのまな弟子・さくらだ千晶さんによるウォーキング教室や、漫才師の春日三球さんを招いた「さわやか講演会」が開催されたほか、白石工業高校機械部の皆さんが壊れたおもちゃを修理する「おもちゃの病院」なども併せて行われました。

## 美しい歌声が生み出す感動のステージ

### きみつ少年少女合唱団コンサートを開催

8月5日、ホワイテキューブで千葉県君津市の「きみつ少年少女合唱団」によるコンサートが開催されました。このコンサートは、同合唱団の指導者・石川真奈美さんの故郷である当市に子どもたちの歌声を響かせたいという強い思いから実現したものです。卒団する5人のラストコンサートでもあった今回のコンサート。次々と披露される美しい歌声に400人の観客が酔いしれ、感動の中でフィナーレを迎えました。



▲感激の表情であいさつする石川さん

夏季は姉妹都市・友好都市交流が盛んになります。今年は7月16日に、友好都市の札幌市白石区の「白石区ふるさとまつり」に参加してきました。この白石区は明治4年、片倉家老の佐藤孝郷氏率いる600余名が入植したことにより歴史が始まります。彼らの開墾の功績が認められ、北海道開拓使によりふるさとの名を取り「白石村」と名付けられました。このため、前夜の交流会では、横山白石区長や清水ふるさと会会長など、諸団体の方々が集まり、祖先のふるさと・奥州白石から来た我々を熱烈に歓迎してくれました。民間団体の白石区ふるさと会が主催するこの祭りは、区内にあるアサヒビール園を会場に、さまざまな催しがり屋内外で夜まで続きます。

7月30日には、姉妹都市の神奈川県海老名市の「えびな市民まつり」に参加してきました。この祭りには、昨年まで市主催による「えびなふるさとまつり」だったものが、今年から市民有志による実行委員会との共催となり、市民による市民のための新しい祭りとして開催されました。昨年までのふるさとまつりの良き伝統を生かしつつ、路上パレードや若者たちによる音楽ライブなども開催されるほか、クライマックスは、夕方のメイン会場に入ってくる各町内会の「みこし・はやし」とみんなで踊る「盆踊り」です。この盆踊りの輪

には、各地区の婦人会のみならず、見に来ている老若男女が自由に参加して楽しめます。私も内野市長と一緒に輪に入り踊ってきました。当市からは両祭りに白石の物産ブースを開設するとともに、こけしの絵付けやろくろ挽きを実演して参加しています。これらの祭りには、主催者側がいきいきと楽しんでいることです。主催者が楽しんでいるから参加者も楽しくなる。だから祭りが大変盛り上がりついているのだろーと思ひます。

「信」とは、欺かないこと、まことのことであり、言は、「はつきり言う」という意味で、「人十言」で一度言明したことを押し通す人間の行為を表し、途中で屈することなく、まっすぐ伸び進む意味を含むそうです。姉妹・友好都市を提携して今年で白石区30年、登別市23年、海老名市・ハーストビル市は12年になります。これまでの交流によって培ってきた信頼関係を基に、これからも姉妹・友好都市という「縁」を大切にし、心豊かなふるさとづくりのためまつ

「8月号の答え」  
姉妹都市は、第二次世界大戦後のヨーロッパの各都市の復興のため、当時のアメリカ大統領アイゼンハワーが、アメリカの各都市と交流を行うことにより、民間レベルでの協力を強化しようと始まりました。  
ヨーロッパのほとんどの国では言葉の名詞に性別があり、「都市」は女性名詞とされていることが多く、姉妹都市となったわけです。名詞に性別のない英国では、「双子都市」と呼んでいるそうです。